

断面修復システム

中性化により剥離が発生している場合や、塩害によってスケーリングが進行している場合などは、コンクリート構造物の2 cmから5 cm程度が特に劣化しており、内部のコンクリートは健全な状態を保っていることがよくあります。

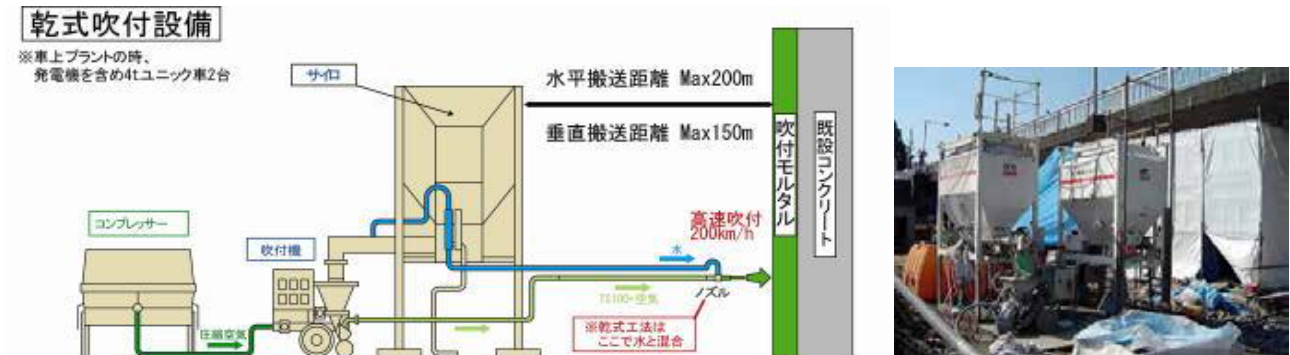
10 cm、20 cmと局部的に損傷している場合は、当然フレッシュコンクリートで修復する必要がありますが、構造物全体に及んでいることは少ないです。

これらのコンクリート補修は構造物全体を、付着力に優れ、母体の動きに追従できる低い弾性係数を持つ薄い層で被覆することが有効です。

【特性紹介】

乾式付け工法

- リバウンド率 約10～20%（現場条件により多少の誤差は生じます。）
- 搬送距離（Max） 水平200m 垂直高さ150m
- ダスト（粉塵）を軽減するサイロシステム
- 時速200kmの高速で吹き付ける高い付着力・高密度なモルタル層。



湿式付け工法

- リバウンド率 約2～5%（現場条件により多少の誤差は生じます。）
- 耐硫酸塩用の吹付け材料も適用できます。
- ダスト（粉塵）を軽減するサイロシステムも適用できます。

左官工法 ポリマーセメントコンクリート

- コンクリートに比べ変形係数が小さく、曲げ張力が増強する。
- 低い水セメント比
- 高い水抵抗能力 ・ 低い収縮率
- 初期における高い付着力の発現

*当社は(株)クリテックジャパンの代理店として、ドイツSto社製品の販売及び関連工事の施工を行っています。



高幸建設株式会社

TAKAKOH CONSTRUCTION Co., Ltd.